

分科会	小	都市名	豊田
提案者	豊田市立根川小学校		横見智之

仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画のできる子の育成をめざす社会科の授業
—小学4年「事故や事件からくらしを守る～根川の安全を守っているのはだれだ！～」の実践より—

1. はじめに

(1) 研究の経緯

三教研社会科部では、研究主題『仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業』を設定している。そこで、研究主題を次のようにとらえた。

「仲間とかかわりながら」について

「仲間」とは、一緒に学び合う学級の子もだけをさすのではなく、かかわる人たちもすべて含めたものを意味する。仲間の考えのよさを取り入れて高め合う場を重ねることで、自分自身の考えを深めて問題の解決方法を見出し、行動していくことが求められる。授業の中でかかわった人たちを、自らの「仲間」と意識することで、問題に対する切実感が増し、より高い次元の学びとなる。

「よりよい社会づくりへの参画をめざす」について

「よりよい社会」とは、そこにかかわる人にとって、幸せを感じられる社会である。自分の考えと仲間の考えのよさをそれぞれに生かしながら、問題の解決をめざす子どもの姿を求めたい。そうして、問題の解決が見えた先にあるのが「よりよい社会」である。お互いの考えのよさを認め合いながら、問題の解決のために協働していく必要がある。

今の社会は、情報化や産業の転換が進み、過去の経験だけでは解決できない問題も起こっている。そのため、問題点を明確にし、よりよい社会の実現に向けて多様な視点から問題解決に取り組む意欲と実行力が求められる。これらを踏まえ、今年度の研究を行った。

(2) 研究単元の設定理由

本単元の学習に入る前に行った安全に対する意識アンケートでは、自分たちは気を付けて生活していると回答した子が大多数であった。しかし、子どもたちの登下校の様子を見ると、下校途中に話に夢中になり、すぐ横を車が通っても気付かなかったり、気にする様子がなかったりしていることがある。また、縁石を跳び越えて道路を走って行く姿も見受けられ、危険だと地域から連絡が入ったこともある。1～4年生の学年下校では、4年生だけがかたまって、低学年を気にかけることもなく、しゃべりながら下校する様子も見られ、子どもたちの安全への意識は低いと感じる。また、こども110番の家がどんな役割をしているか知らない子が多く、今の子どもたちの様子では、いつ事故が起きてもおかしくないし、何かあったときにどこに助けを求めたらよいか分からないと思われる。子どもたちの安全に対する意識と実態の大きなずれが問題であると考えた。

前単元のごみの学習では、実際に清掃工場を見学し、インタープリターさんに何度も話を聞くことで子どもたちのごみを減らしていこうという意識を高めることができた。今単元でも人に出会わせることをきっかけにし、地域社会の一員としての自覚を養うことで、自分たちで考えて、行動できる子どもを育てたい。

以上のことから「事故や事件からくらしを守る～根川の安全を守っているのはだれだ！」の学習を通して、安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を知り、安全に対する意識を高めることをねらった実践に取り組むこととした。

2. 研究の目標

主題に向けて、めざす子ども像を次のように考えた。

- | | |
|----|------------------------------------|
| I | 地域のさまざまな人が、自分たちの安全を守っていることを理解する子ども |
| II | 地域社会の一員として、自分にできることを考え、意欲をもつ子ども |

上記のめざす子ども像に迫るための効果的な指導方法の究明を研究の目標とした。

3 研究の仮説と手だて

(1) 研究の仮説

研究主題に迫るために、次のような仮説を立てて研究を進めることにした。

＜仮説 1＞ 子どもにとって、本物に出会わせることで、多くの人が自分たちの安全のために動いていることを理解することができるだろう。

＜仮説 2＞ 目的をもたせるために、多様な意見を聞くことで、自分にできることを考え社会に参画しようとする意欲をもつことができるようになるだろう。

(2) 研究の手だて

＜仮説 1＞ に対して 理解することができるようにするための手だて

＜手だて①＞ 豊田市や学区の事故の資料を提示する

豊田市の年代の新しい資料を提示することで、児童にとって事故が身近なことだととらえられるようにする。

＜手だて②＞ 地域の方を活用する

警察官、地域の見守り隊、交通指導員、子ども 110 番の家の方と、さまざまなゲストティーチャーの話を聞く場の設定し、身近な本物に出会わせることで、さまざまな立場の人たちが安全のために活動していることに気付けるようにする。

＜仮説 2＞ に対して 社会に参画しようとする意欲をもたせるための手だて

＜手だて③＞ 話し合いの工夫

課題について、まず自分で考えた後、学級全体で話し合う場を多く設ける。他の児童の意見を聞くことでいろいろな見方から考え、自分の考えがより深まっていくようにする。

＜手だて④＞ 振り返りを行う

振り返りの場を設定し、思考したことや活動したことを目に見える形に表すことで、学んだことを自分事として考え、次の活動に向けて意欲化を図れるようにする。

4 抽出児童

	実態	教師の願い
A 児	友達の意見をよく聞き、自分の意見をもつことができる。しかし、毎日、地域の見守り隊の人と通学路を歩いているが、豊田市の事故が減っている理由を考えたときに、運転免許を取ることが難しくなったからと予想し、見守り隊などの人が守ってくれていることが意見として出てこなかった。	事故や事件を減らすために、地域の方が見守ってくれていることに気付かせたい。また、友達や地域の方の話を聞く中で、自分の考えを深め、自分が安全のためにできることを具体的に考えさせたい。

5 研究の実際と考察

① 通学路の横断歩道が危ない場所であることを伝える A 児（手だて②）

夏休みの宿題で行った、ヒヤリマップ（豊田市都市交通研究所からの調査）を用いて授業を行った。児童一人一人に自分が危険を感じたことがある場所をシールで拡大した地図に貼らせ確認した。A 児はこのとき、「学校の近くの信号のない交差点が危ない」と発表した。それに対して、同じ通学団や普段からこの交差点を渡る子からも、「車とぶつかりそうになった」「スピードを出している車も多い」という意見が出た（資料 1）。子どもたちは、登下

【資料 1 授業記録 A 児の発表の様子】

T 1：ヒヤリした場所はどこかな。

C 1：248（国道）を歩いているときに自転車にぶつかりそうになった。

A 児：学校の近くの信号のない交差点が危ないです。

T 2：どういうヒヤリがあった。

A 児：車とぶつかりそうになりました。

C 4：僕もぶつかりそうになった。

C 5：けっこうスピードが出ている車も多いよ。

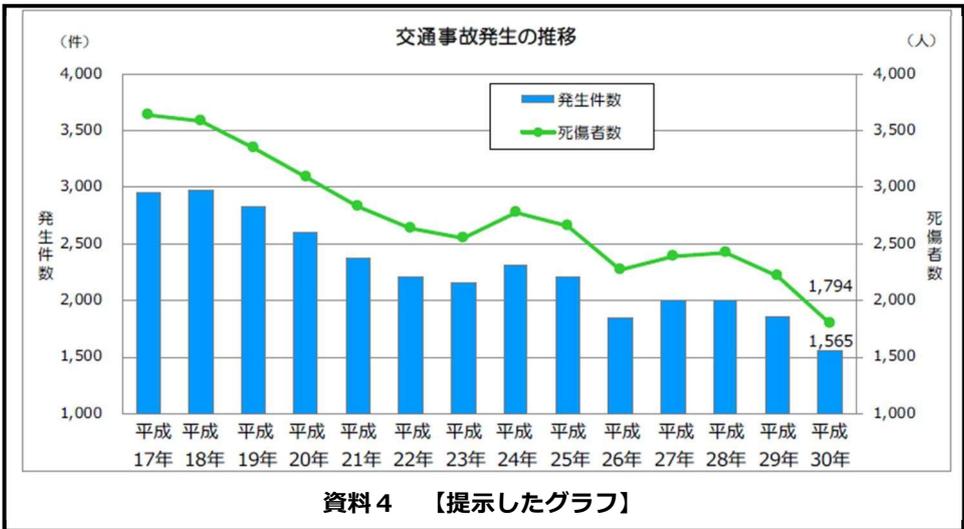
校や遊びに行くときに、日常的に横断している道路がやっぱり危ないということに気付くことができた。またA児も、自分の危ないと思っていたが、みんなも危ないと感じていることに気がつきかけとなり、危ないところが身近なところにもたくさんあるということを知り（資料2）身近な道路の安全について関心をもった様子であった。

【資料2 A児の振り返り】
 僕が危ないと思っていたところが、みんなも危ないかと思っていたということが分かりました。

② 豊田市の事故が減っていることに驚くA児（手だて①、③）

次に、豊田市の事故件数が平成17年から平成30年の間でどのように推移しているかを予想させた。A児は、「僕も豊田市は車の町だから車の量が多いし、人口がふえているから事故はふえている」と発言をした（資料3）。A児がC1の意見をふまえて自分の考えを発表している様子分かる。話し合いの後、グラフを見せて、実際には事故がへっていることを知らせた（資料4）。資料を提示すると、子どもたちの多くは驚いた様子であった。A児も授業の振り返りに、「どうして事故がへっているのか気になる」（資料5）と書いていて、豊田市の事故が減った理由を知りたいという思いをもっていることが分かる。

【資料3 授業記録 A児の発表の様子】
 T1：豊田市の交通事故はどうなっていると思いますか。
 C1：増えていると思います。
 T2：なんで？
 C1：車が多いから。
 C2：私も車が多いから事故が増えていると思います。
 A児：僕も豊田市は車の町だから、車の量が多いし、人口が増えているから事故は増えていると思うからです。



【資料5 A児の振り返り】
 最初はふえているかと思っていたのに、実際はへっていて、とてもびっくりした。どうして事故がへっているのか気になった。

③ どうして事故が減ったかを考えるA児（手だて①、②）

豊田市の事故が減っていることを知った子どもたちに、どうして事故が減ったかを考えさせた。A児は「運転免許を取るのが難しくなったから」と予想をした（資料6）。この時点で、子どもたちは、安全を守ってくれている人が近くにいるということに気付いていないことが分かる。予想を立てたのち、なぜ事故が減っているかという疑問をどうすれば解決ができるかと、子どもたちに聞いたところ、「地域の人に聞く」「トヨタ自

【資料6 なぜ事故が減ったのか子どもたちの予想】

- ・車の機能が上がっている（ナビ・自動運転など）
- ・運転する人が減っているから
- ・高齢者の自動車学校ができたから
- ・道が広くなった
- ・ガードレールが増えた
- ・呼びかけの看板が増えた
- ・交通事故を起こさなようにと思う人が増えた
- ・運転免許を取るのが難しくなったから（A児）



【資料7 警察の方の話を聞く様子】

動車の人に聞く」「警察官に聞く」という意見が出た。そこで、豊田市全体のことを知るために警察の方に来てもらい、話を聞く機会を設けることにした(資料7)。警察の方の話を聞いて、子どもたちは、愛知県は交通事故の件数が全国で一番多いことや、人口も多いため、日本で4番目に警察職員が多いことを知る。そして、事故が減っている理由は、市役所と警察が協力することで街灯が増えて暗い道でも見やすくなったことや、それにより人々の安全意識が向上したことを知った。話を聞いた後に、A児は、「これからも協力をしてほしい」(資料8)とワークシートに記述した。警察官が教科書で学んだ仕事以上に、安全を守るために市役所と協力をしていることを知り、これからも協力を続けて欲しいという考えをA児がもつようになったことが分かる。警察官の方の話を聞いた後に、学級で振り返りの時間を設けた。警察官の方が「みんなが安全に過ごせるように」心掛けて仕事をしていることを確認した後、自分たちの安全を守ってくれているのは、警察官だけかという問いを子どもたちにした(資料9)。子どもたちからは、家族、地域の人といった意見が出た。そして、地域の人とはどんな思いをもっているかということに対して、子どもたちからは、警察の方と同じ思いをもっているのではないかという意見が出た。そして、教師の「今、言ってくれたようなことを思っているのかな」という問いに対して、警察の方の話をふまえたうえで、「地域の見守り隊の人に聞けばいい」という意見が出た。また、授業後のA児の振り返りからも、地域の方に話を聞いてみたいという思いをもっていることが分かる(資料10)。

④ 見守り隊の人、交通指導員の井上さんの話を聞くA児(手だて①、③)

子どもたちの意見から、実際に地域の見守り隊の人と交通指導員の井上さんの

【資料8 A児の振り返り】

愛知県は、人口が多いから、警察官の人数も多いということが分かりました。そして、警察の中にもいろいろな役割があることが分かりました。(中略)事故が減った理由が協力だとは思いませんでした。これからも協力を続けて欲しいです。

【資料9 授業記録】

- T1：交通事故や家のドロボウからみんなを守ってくれているのは警察だけ？
- C1：家族。
- C2：地域の人。
- T2：じゃあ、この人たちはどういう思いをもっていると思う？
- C3：事件とかおきないようにみんな考えてやっていると思う。
- C4：警察と同じように、みんなが安全に過ごせるようにと思っていると思う。
- T3：今、言ってくれたようなことを思っているのかな。
- C5：地域の見守り隊に聞けばいいじゃん。
- T4：なるほどね。

【資料10 A児の振り返り】

地域の人や見守り隊の人がどんな思いをもっているのか、気になりました。話を聞けるなら聞いてみたいです。

【資料11 見守り隊の方や井上さんに聞きたいこと】

- ・どんな気持ちでやっているのか(A児)
- ・なぜ見守り隊(交通指導員)をやっているのか
- ・どうして大きな声であいさつをするのか
- ・何年やっているのか
- ・どうしてやり始めたのか
- ・一番気を付けていることは何か
- ・大変なことは何か
- ・1日のスケジュールは(A児)

話を聞く機会を設けることにした。活動を自分事にするために、話を聞く前に子どもたちにどんなことを聞きたいかということを考える時間を設けた(資料11)。子どもたちは、それぞれ聞きたいことをワークシートに記述した。A児も、「どんな気持ちで見守ってくれているのか」と記述をした。より身近なことになるように、見守り隊の方の話を通学団ごとの4つの地区(長興寺・下林・下市場・金谷)に分けて話を聞いた。子どもたちは地区ごとに話を聞き、質問した。(資料12)。そのため、毎日見守ってくださる近所の方の話が聞けたり、具体的な場面について質問できたりし、自分に近づけて考えることができた。児童Aは、見守り隊の鈴木さんから、下校の時間に30分活動を行っていることや、その他にも活動できる時間に見守ってくれていることを聞いた。その後、交通指導員の井上さんの話を聞き(資料13)、みんなが事故にあわないように願いながら活動をしているということや、みんなには登下校では元気にあいさつをしてほしいという話を聞いた。A児は「(転んだときに危なくないように)荷物は片手で持とうと思いました。朝、大きな声であいさつをしようと思いました」と振り返った。話を聞いて、自分のこれからの生活にかかわることを考え始めていることが分かった。



【資料12 見守り隊の方の話を聞くA児】



【資料13 井上さんの話を聞く様子】

⑤ こども110番の家を知るA児(手だて③)

見守り隊の方や交通指導員の井上さんの話を聞いた後に、子どもたちから「こども110番の家」も安全を守ってくれているのではないかと意見が出た。そこで、こども110番の家について、クラスの子どもたちにアンケートをとった。

- ①こども110番の家を聞いたことがありますか。(33人中)
 ある…32人(A児) ない…1人
- ②こども110番の家がどこにあるか知っていますか。
 知っている…20人 知らない…13人(A児)

こども110番の家のことを知らない児童もいたので、まずは、子どもたちにこども110番の家がどこにあるか調べることを宿題にした。A児は、家の人に聞いて書いてきたが、このときに書いてきたものは、実際にはこども110番の家ではなかった。A児の通学路には、こども110番の家はなく、想像になってしまったと思われる。その後、学級内で調べてきたこども110番の家を確認した。授業後のA児の振り返りには「たたみ屋さんがこども110番の家だと知れてよかった」(資料15)とあり、友達の調査により、A児がこども110番の家を知り、身近に感じられたことが分かる。

【資料14 A児の振り返り】

見守り隊の方の話を聞いて、これからは登下校では荷物は片手で持とうと思いました。また、井上さんの話を聞いて、朝大きな声であいさつをしようと思いました。

【資料15 A児の振り返り】

たたみ屋さんがこども110番の家だと知れてよかった。こども110番の家がこんなにたくさんあって驚いた。

⑥ こども110番の家の深見さんの思いを知るA児（手だて②、③）

こども110番の家を知った後、どうしてこども110番の家をやっているのかなということを話題にした。これまでの学習から、子どもたちはこども110番の家の方に直接聞きたいという思いをもっており、学校から一番近いこども110番の家である、豊屋を営んでいる深見さんから話を聞く場を設けることにした。話を聞く前に自分達で予想を立てた（資料16）。見守り隊や交通指導員さんに聞いた話をもとにして予想を立てることができ、ここでA児は「地域みんなの安全のために活動している」ということをワークシートに記述した。そして、深見さんに来ていただき授業を行った。

【資料16 深見さんがどうしてこども110番の家をやっているのかの予想】

- ・地域みんなが安全に過ごせるようにするため（A児）
- ・小学校が近いから
- ・子どもが好きで、守りたいから
- ・子どもを交通事故から守りたいから
- ・豊田市は事故が多いから

こども110番の家を始めたきっかけが、「自分の子どもが交通事故にあったから」ということを深見さんから聞いた子どもたちは、とても驚いた様子であった。また、車が止まってくれると思って道路を横断してはいけないことや、深見さんのように通学路には立っていなくても、遠くから見守ってくれる人がいることを聞いた。A児の振り返りにも「自分も交通事故にあわないように気を付けたいです（資料17）」とこれから自分も交通安全に気を付けたいと思いを深める姿があったことが分かる。

【資料17 A児の振り返り】

子どもが交通事故にあったことが、こども110番の家のきっかけだということがとても驚いた。自分も交通事故にあわないように気を付けたいです。

こども110番の家を始めたきっかけが、「自分の子どもが交通事故にあったから」ということを深見さんから聞いた子どもたちは、とても驚いた様子であった。また、車が止まってくれると思って道路を横断してはいけないことや、深見さんのように通学路には立っていなくても、遠くから見守ってくれる人がいることを聞いた。A児の振り返りにも「自分も交通事故にあわないように気を付けたいです（資料17）」とこれから自分も交通安全に気を付けたいと思いを深める姿があったことが分かる。

⑦ 自分たちにできることを考えるA児（手だて④）

A児のように、自分たちも気を付けたいと振り返りを書いた子どもが多かった。振り返りを交流し合い、井上さんや見守り隊の方から話を聞いたこともあり、登下校で自分たちにできることを考えることにした（資料18）。A児は、自分たちにできることとして、井上さんの話を踏まえて「あいさつを大きな声です」「間を開けないで歩く」とワークシートに記入した。その後、学級での話し合いの時間を設け、子どもたちはそれぞれ自分の意見を発表した。A児はこのときは、話を聞くことに集中していた。話し合いの後に、「自分がまずはやってみることを子どもたちに書かせた。A児は「元気に大きな声であいさつをする」

【資料18 自分たちにできることの一部】

- ・ふざけて道路にでない
- ・あいさつを大きな声です（A児）
- ・横断歩道では左右をしっかりと確認して渡る
- ・3列や4列にならないようにする
- ・道に飛び出さない
- ・間を開けないで歩く（A児）

【資料19 A児の振り返り】

友達も言っていたけど、僕も元気に大きな声であいさつをしたいです。理由は、あいさつをした人と自分がいい気持ちになるからです。

ことに取り組むことにした。授業後の振り返りに、A児は「友達も言っていたけど、僕も元気に大きな声であいさつをしたいです（資料19）」と記述した。話し合う前と比べ、意見の変化はないが、友達の意見を聞いて自信をもった様子が伺える。その後、1ヶ月間の実践をした（資料20）。登下校を見ていると、A児が大きな声で井上さんにあいさつをする様子が伺えた。1ヶ月後にやってみた振り返りを聞いてみると、「前より、あいさつの声が大きくなったと思いました」（資料21）と書いてあり、A児の意識の変化があったことが分かる。また、A児に登下校の様子を聞くと、広がらないように気を付けたり、弟と手をつないで歩くようにしたりしているという、事故に気を付けて登下校をしているという話も聞くことができた。

元気に大きな声であいさつをする

ひょうかのきじゅん	
◎	笑顔で大きな声であいさつをした相手目が合っていて返してあげた
○	あいさつをして相手があいさつを返してくれなかった
△	あいさつをしても相手が気づかなかつた

24(木)	25(金)	28(月)	29(火)	30(水)	31(木)	11/1(金)	5(火)	6(水)	7(木)
○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	◎
8(金)	9(土)	12(火)	13(水)	14(木)	15(金)	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)
○	○	△	◎	○	○	○	◎	○	◎

【資料20 A児の振り返り】

【資料21 A児の振り返り】

取り組む前より、あいさつの声が大きくなったと思いました。あいさつをして相手と自分の目が合うと少しはかしくなるけれど、心と心のあく手をしたような気分になりました。

6 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

<手だて①> 豊田市や学区の事故の資料を提示する

子どもたちにあまり実感のない交通事故というものについて、身近な豊田市や根川小学区のことを話題にすることで、交通事故というものをより身近なものとしてとらえることができた。それにより、自分事として考えることができた。

<手だて②> 地域の方を活用する

本実践では、さまざまな方の話を聞くことで、活動内容、努力、思いを知り、それぞれの違う立場ではあるけれども、子どもたちに安全に登下校してほしいと思っていることは同じであることに気付くことができた。そして、A児は交通指導員の井上さんの話から、あいさつの大切さを知り、実践でもあいさつを意識するようになった。また、A児の振り返りからも、ゲストティーチャーが身近な人となり、地域ともつながることもできた。

<手だて③> 話し合いの工夫

自分で考えた後に、学級で共有する場を多く設定した。自分の考えをもつことで、友達の意見に共感したり、違いや新しい視点を知ったりすることができ、さまざまな事を自分事として考えられるようになった。

<手だて④> 振り返りを行う

振り返りの場を設定することで、思考したことや活動したことを目に見える形で表し、次の活動につなげることができた。また、単元を通して地域の多くの方に守られているということに気付いたことから、自分たちにもできることを考えることができ、まずは登下校でやってみることを決め、行動に移すことができた。

(2) 研究の課題

今回は、交通安全ということを通して、子どもたちと社会参画について考えた。今回A児は、「自分たちにできることを考えよう」で、あいさつのことについて活動を行った。この活動で、単元の学びを生かして、交通安全についても実践できるように課題設定ができたならよいと思う。また、他にも子どもたちが地域のことを考え行動に移せる機会はたくさんある。さまざまなことを通して、これからも継続的に社会参画につながるよう指導を続けていきたい。

単元構想

時間	学習課題と予想される児童の思考
2	<p>根川小のヒヤリマップから、事故はどのようなところで起こりやすいのでしょうか①</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故にあったことがあるかどうかを話題にしたのち、ヒヤリマップを見ながら、身近な地域でどのような場所が危険いかを発表し合う。 急なとびだし ・ 信号のない横断歩道 ・ 248の道 ・ 狭い道 <p>広い道や交通量が多いところでは、事故もたくさん起きている</p> <p>事故の数を見てまちの安全について考え、学習課題をつくりましょう②</p> <ul style="list-style-type: none"> グラフを見て、豊田市の事故の数が減っていることを確かめ、どうしてそのように変化しているのかを発表し合う。 事故が減っているのは何でだろう。 ・ だれかが守ってくれるからかな。 <p>事故からわたしたちの安全を守るために、だれがどのような活動をしているのかな</p>
8	<p>けいさつの仕事は、わたしたちの生活とどのような関係があるのでしょうか③④</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故が減っている理由はなぜかを考える。 車の性能がよくなっているからかな。 ・ みんなが意識するようになったからかな。 警察官の人の話を聞く。 警察の人は事故から僕たちを守ってくれているだけではないね。 僕たちの安全を守ってくれている人は他にもいるのかな。 <p>警察官は、事故だけでなく、わたしたちの生活の安全を守るために地域社会の中でさまざまな活動をしている</p> <p>事故からわたしたちの安全を守るために、だれがどのような活動をしているのでしょうか⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習問題について予想し、調べること・調べ方・まとめ方を話し合う。 〈調べること〉 ・ 警察官の人の仕事をもっと知りたいな。 ・ 見守り隊の人は、どんな活動をしているのかな。 〈調べ方〉 ・ 学校のまわりを調べたり、地域の人に話を聞いたりするといいかな。 〈まとめ方〉 ・ 安全を守る人の活動を表にまとめる。 <p>事故の処理では、どのような人がどのように協力をしているのでしょうか⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故現場で働く人の写真から、事故がどのように処理されているのかを発表し合う。 いろいろな人が協力している。 ・ 救急車や消防車も現場にかけつけている。 どうして、すぐに事故現場にかけつけることができるのだろう。 事故が起きたときの連絡の流れについて、イラストで確認する。 事故の連絡は、まず通信指令室に届く。 ・ 通信指令室から、いろいろなところへ連絡が回る。 連絡を受けた関係機関は、ただちに事故現場に向かう。 <p>事故は、さまざまな人の協力によって処理されているんだね</p> <p>地いきの人たちは、安全なまちづくりのために、どのような取組をしているのでしょうか⑦⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> 見守り隊の方の話を聞く。 防犯パトロールに参加したことがあるよ。 ・ PTAの見守り活動に協力しているよ。 交通指導員さんの話を聞く。 毎日立ってくれて、ありがとうございます。 ・ 僕たちの安全を考えてくれているんだね。 <p>地いきの人々は、安全なまちづくりのためにさまざまな工夫や努力をしている</p> <p>地いきの人たちは、まちの安全を守るためにどのような活動をしているのでしょうか⑨⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども110番の家などが学区のどこにあるか、調べたものを発表する。 子ども110番のステッカーを見たことがあるよ。 ・ こんなにたくさん110番の家があるんだね。 子ども110番の家の方の話を聞き、地域の人が協力して地域の安全を守っていることを考える。 地域の安全をまもっているのは、警察だけではないね。 子ども110番のほかに、地域にはどのような取り組みがあるのだろうか。 <p>まちの安全は、関係機関と地域の人々の協力によって守られている</p>
3	<p>事故や事件からわたしたちのくらしの安全を守る人の活動を、まとめて、自分にできることを考えよう⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに調べた安全を守る人の活動を、表にまとめる。 警察官は、見守りをしていた。 ・ 地域の方は、防犯パトロールをしていた。 安全を守る人について発表し合う。 警察官はいろいろな仕事をして、わたしたちの安全を守っています。 地域の方は、協力して安全なまちづくりを進めています。 ・ 自分も協力できることがあったら、協力したいと思います。 <p>事故や事件から地域の人々の安全を守るために、警察署など関係機関は相互に連携し、地域の人々と協力しながら活動している</p> <p>安全なまちづくりのためにわたしたちにできることを考えてみましょう⑫⑬（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習してきたことを生かして、地域がより安全になる方法を考える。 登下校では、危ないところを意識して歩くようにしないとね。 ・ 自分たちももっと交通ルールを守るように意識しよう。 登下校では、しっかりとあいさつをしないとね。 ・ もっと地域の方とかわりたいな。 <p>自分たちにできることをやっていくことで、地域の安全を守ることにつながる</p>